



## 名桜大学総合研究所『総合研究』発刊によせて

公立大学法人 名桜大学

総合研究所所長 金 城 やす子

平成25年4月から名桜大学総合研究所所長を拝命し、業務を担当させていただきました。ここに、平成25年度の『総合研究』が無事に発刊できますこと、所員の皆さまのご協力とご支援に感謝申し上げます。

これまで総合研究所では、毎年『総合研究』を発刊し、さらに年次報告書の発行と、二重に業務を行ってきました。今年度は、年次報告書と研究所紀要を含む、研究所総合機関誌として『総合研究』を発刊することにしました。

『総合研究』は、平成25年度に投稿された原著論文1編、研究ノート1編、調査報告5編、その他の論文2編、合計論文9編を掲載しています。論文は外部者の査読を経ながら修正されたものであり、質の高い論文が掲載されております。また、年次報告では、実施した業務内容、研究支援状況とその課題について報告できるようにまとめました。今年度は大きな仕事として、総合研究所に関連する各種の規程の見直し、研究支援のあり方に関する業務に多くの時間を費やすとともに、研究成果を地域に還元するための部門別シンポジウムの開催、科研費申請のための研修会の開催、学内研究費助成の拡大に向けた議案の提出等、多様な業務を遂行してきました。総合研究所が取り組んできたその成果を『総合研究』に掲載し、多くの教職員の皆さまにお届けできることをうれしく思います。

名桜大学総合研究所（総合研究所）は名桜大学の教員が所員として組織された研究機関であり、総合研究所の主な業務である研究支援は、研究協力係が担当してきました。科学研究費の申請に係る事務の取り扱い、研究費助成を受けた研究者への支援、所員の研究支援を大きな使命として業務を運営してきました。また、研究成果の公表の場として研究所紀要の発刊に向けて、紀要編集委員会のもと、研究者への論文投稿の依頼、投稿論文の査読依頼や修正依頼、また印刷会社との調整等、煩雑な業務を行い、年度末の発刊に向けて作業が進められてきました。事務担当者の交代があるなかで、予定がかなり遅れながらも編集作業がすすみ、発刊の目途が立ったことに責任を果たせた安堵感を抱いております。

総合研究所は今年度から教育プログラム支援準備室が配置され、各種GP事業の運用、事務担当も合わせて行ってきました。大学に係わる研究を総合研究所が一手に引き受け、運用してきたことは大変でしたが、全学に周知できるという点では効果的な配置であったと評価します。総合研究所にはまだまだ解決しなければならない課題が多くあります。所員一人ひとりに必要とされる研究所であることは当然ですが、プロジェクト研究の推進や産官学連携を視野に入れた共同研究、受託研究の活性化、外部資金獲得に向けた支援のあり方など、また科研費等の公的助成金の不正に関する教職員の意識の向上、関連する他部門や他組織との連携も視野に入れ、課題や組織運営について一つひとつ解決しながら、必要とされる研究支援が可能となる総合研究所の運営をめざしていきたいと考えております。

次年度は名桜大学基盤形成事業が全教員の参加のもとで開始されます。また、書籍等の出版を予定されている先生方には出版助成も検討しております。総合研究所からの情報発信を受け止め、参画していただけることを期待しております。

総合研究所の運営は所員の皆さまの貴重なご意見とご協力のもとに運営されます。今後とも、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。